

刈取後から次年度の土作りが始まります ～良食味米・高品質米生産のために～

良食味・高品質米を安定的に生産するためには、稲が必要とする養分や水分を必要な時期にバランスよく供給でき、かつ異常気象等の外的要因が与える負の影響を和らげる緩衝力の高い土壌が不可欠です。平成29年産米の良食味・高品質米に向けて土づくりをしましょう。

稲わらの秋すき込みをしましょう

- ・秋すき込みをした圃場は、保水力や窒素供給力が増し、干ばつや高温登熟条件等の異常気象下での稲の成長や登熟を助けます。
- ・わきの発生を抑制し、根腐れや初期生育の不良を防止します。
- ・すき込みの時期は稲わらの腐熟の促進や温室効果ガスであるメタンの発生の抑制を図るため、遅くとも10月中旬までには完了してください。
- ・耕深は作業能率や腐熟促進等を考慮して5～10cmの浅打とします。

ケイ酸・鉄の不足に注意しましょう

近年の土壌分析の結果では、ケイ酸と鉄分が不足傾向にあるようです。ケイ酸は、茎や葉が丈夫になり倒伏に強くなるほか、登熟が向上し、**収量・品質・食味**が良くなります。

鉄は、水田の有害な硫化水素を無害な硫化鉄に変えて健全な根の発達を促します。

どちらも自然に減少していきますので秋打ちの際に土づくり資材の施用をおススメします。

～土作り肥料のご紹介～

魚沼ロマンアイアンスター 60～80kg/10a 散布

土壌分析等で鉄不足、秋落ちする圃場におススメ
(リン酸・ケイ酸、苦土、鉄、腐食酸などを含む総合的な土作り肥料)

魚沼ロマンソイルキーパー 40～60kg/10a 散布

魚沼地域専用の低コスト肥料
(ケイ酸を中心にリン酸、苦土、加里、腐食酸を含む土作り肥料)

ソイルキーパーFe 100～200kg/10a 散布

「鉄」を中心に考え配合した低コスト土作り肥料
(アルカリ分・ケイ酸、苦土、鉄、などを含む総合的な土作り肥料)



JA北魚沼では土壌分析を10月末まで受け付けています。
自分の圃場の状態を確認し、良食味、高品質米を生産しましょう!!